



対面式キッチンのあるダイニング。倉庫に設けていた大きなテーブルも、家族のコミュニケーションに役立っている



玄関ドアも室内に合わせ、白に取り替え、右は、中国家具を作り立てた靴箱



キッチン扉は、石川さんの好きなオレンジに、IHクッキングヒーターも取り入れた

施工前



以前のキッチンは壁付けで、出窓も奥行きがありすぎてデッドスペースになっていた

物件DATA

施工面積：85㎡(約25.7坪)
築年数：18年
家族構成：夫婦
設計・施工：㈱ラムハウジング
(電話=098・936・2310)

倉庫の段差をなくしたり、リビングでの一体感を感じた和室。棚を取り除き、より広さを感じさせる



リフォームでは、安全性を確保しつつ、使い勝手のいい快適な空間としたいもの。築18年の住宅を集まりやすい造りにリフォームした石川さん宅の事例を紹介する。



和室・トイレの段差も解消

広く明るい室内実現

石川さん宅は、4階建て住宅の2階部分。夫が病で倒れたのを機に、室内を安全な造りにしようとしてリフォームを決めました。わが家は昔段から子どもがよく集まるので、より快適に過ごせるよう、この機会に広々とした取扱いにもしたかった」と振り返る。以前の室内は、細かく仕切られていて暗く、各室への移動もしづらかった。

和室にはもともと、トイレには15cmの段差があった。そこでリフォーム会社は、LDKを広く取り、和室トイレの段差を解消するプランを提案した。まず、キッチンの背後にあった子ども部屋の壁を撤去し、システムキッチンを取り付け、

対面式に変更。倉庫に取っていた直径180cmの大きな丸テーブルが置けるダイニングスペースを確保した。システムキッチンの扉は、石川さんが好きなオレンジで演出。元のキッチンの排気ダクト跡も見映えよく目隠した。室内は白を基調に明るくコーディネート。年月がたつて汚れが目立っていた壁クロスや天井は張り替え、窓はカーテンの代わりに壁をすっきり見せるロールスクリーンを取り入れた。床は、白い大理石調のフローリングとし、トイレもタイル張りから同じフローリングに変更し、段差を解消した。和室は、床を6畳下げて敷居を取り除いてフラットにした。

